

# (前回の振り返り) SDGsとは

**SDGs** (Sustainable Development Goals) とは、  
2015年9月に国連サミットにおいて採択された **持続可能な開発目標**。  
環境、社会、経済の3側面から**17の目標**を掲げ、**2030年まで**の達成を目指す。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



(出所) 国際連合広報センター

# ESG投資とは何か

**環境**（**E**：Environment）、**社会**（**S**：Social）、**ガバナンス**（**G**：Governance）といった非財務情報を投資の意思決定に組み込む。

2006年に**PRI**（**P**rinциples for **R**esponsible **I**nvestment: 責任投資原則）が発足。機関投資家などが受託者責任の範囲内でESGを考慮することを提唱。

## PRIの6つの原則

1. 投資分析と意思決定のプロセスにESG課題を組み込む。
2. 活動的な所有者となり、所有方針と所有習慣にESG問題を組み入れる。
3. 投資先企業に対してESG課題についての適切な開示を求める。
4. 資産運用業界において本原則が広まるよう、働きかける。
5. 本原則を実行する際の効果を高めるために協働する。
6. 本原則の実行に関する活動状況や進捗状況を報告する。

（出所）PRIより大和総研作成

# ESG投資とSDGsの関係性

2017年末時点の世界のESG投資残高は約31兆ドル

(Global Sustainable Investment Allianceより)。

SDGs採択を契機にESG投資が改めて注目される。

## 投資家が考慮する企業のESGファクターとSDGsとの関連性 (例)

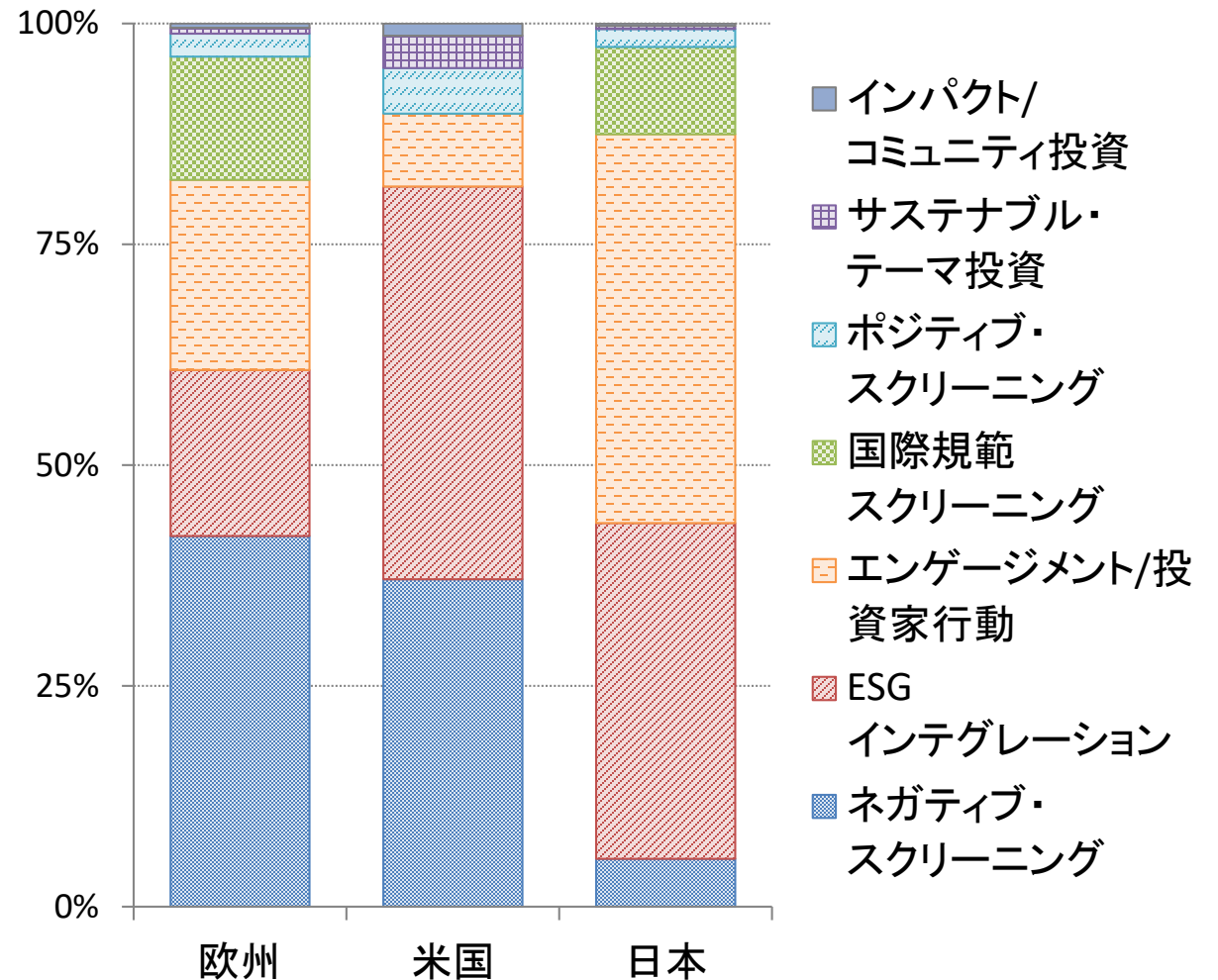
環境	社会	ガバナンス
<ul style="list-style-type: none"><li>CO2排出量の削減</li><li>有害物質や廃棄物の適切な処理</li></ul> 	<ul style="list-style-type: none"><li>ダイバーシティの推進</li><li>労働環境の改善</li><li>地域社会との信頼関係の構築</li></ul> 	<ul style="list-style-type: none"><li>適切な情報開示</li><li>取締役の選任</li><li>取締役の報酬制度</li></ul> 

# ESG投資の手法

投資手法	概要
ネガティブ・スクリーニング	武器、たばこ、ギャンブル、化石燃料など特定のESG基準を満たさない業界や、関連する企業などを投資対象から除外する手法
ポジティブ・スクリーニング	相対的にESGパフォーマンスが高い業界や企業に投資する手法
国際規範スクリーニング	環境や人権など、国際規範を順守しない企業を投資対象から除外する手法
ESGインテグレーション	財務情報だけでなく、ESG情報も含めて分析・評価し、投資対象を選定する手法
サステナブル・テーマ投資	サステナビリティに関連したテーマ、資産に対して投資する手法
インパクト/コミュニティ投資	社会的課題や環境問題の解決を狙った投資
エンゲージメント/投資家行動	エンゲージメント（対話）や株主提案、議決権行使を通じて、企業などにESGへの取り組みを促す手法

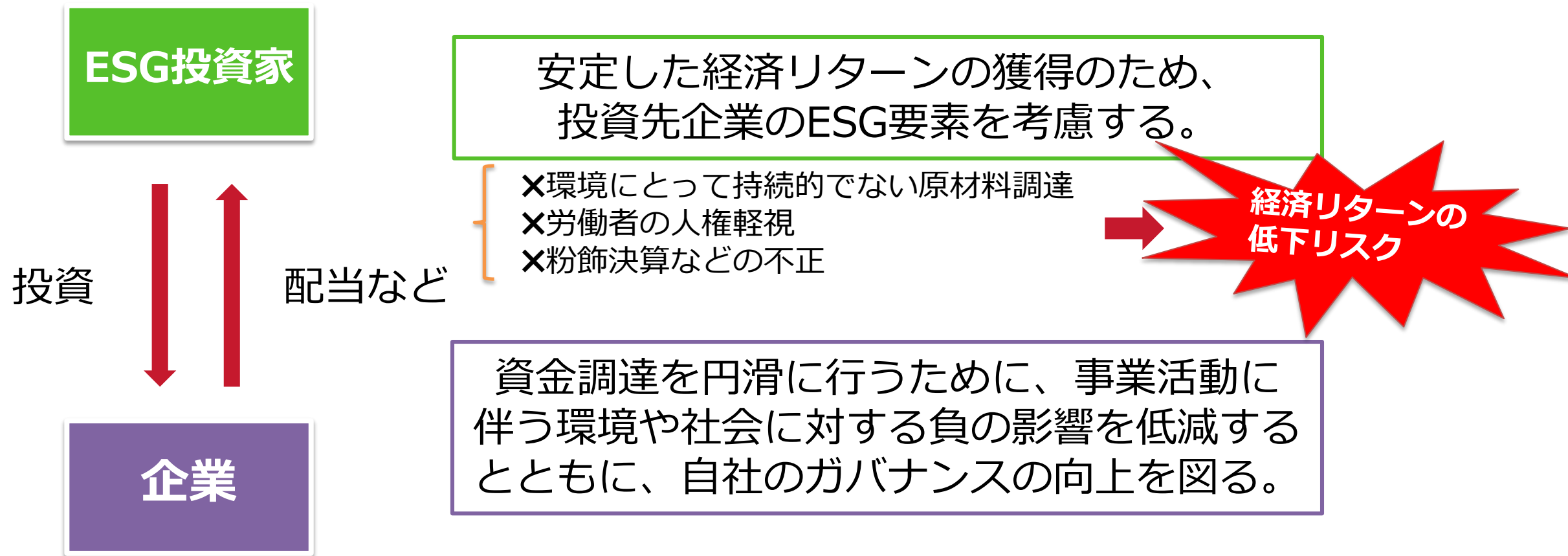
# 手法別に見たESG投資残高

- 欧州や米国ではネガティブ・スクリーニングの割合が相対的に高い一方、日本は低い。
- 日本はエンゲージメントやESGインテグレーションの割合が高い。
- インパクト/コミュニティ投資、サステナブル・テーマ投資の割合は低いものの、伸び率は高い。



(注1) 1つの投資に対し、2つ以上の手法を組み合わせている場合、金額は重複して計上されている。  
(注2) 2017年末時点（日本のみ2017年度末時点）。  
(出所) Global Sustainable Investment Allianceより大和総研作成

# ESG投資に対する期待



ESG課題に取り組む企業が増えることで、社会全体の便益が向上することが期待される。 ➡ ESG投資がSDGs達成に対して貢献できる。